

コメント

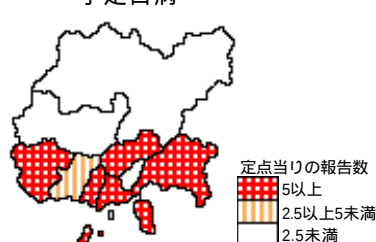
1. 手足口病

定点当たり5.83人と5週続けて増加しています。佐伯区10.7人、東区10.0人、中区9.3人、南区6.7人、安芸区5.0人と特に多く、西区4.7人となっています。例年の同時期と比べ、定点当たりの報告数がかなり多くなっており、注意が必要です。報告数を年齢階級別にみると1歳～3歳が全体の69%を占めています。

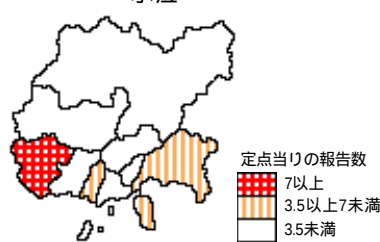
2. 水痘

定点当たり2.96人とやや増加しています。佐伯区では7.0人と特に多く、中区、安芸区ともに5.0人となっています。

手足口病



水痘



4 類感染症報告状況 (定点把握対象分)

	報告数	定点当り	平均 過去3年間 (注1)	発生 記号	疾病名	報告数	定点当り	平均 過去3年間 (注1)	発生 記号
インフルエンザ	-	-	-		麻疹(注2)	-	-	0.18	
咽頭結膜熱	4	0.17	0.24		流行性耳下腺炎	13	0.54	1.24	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34	1.42	1.20	→	急性出血性結膜炎	1	0.13	0.25	
感染性胃腸炎	79	3.29	3.87	↗	流行性角結膜炎	17	2.13	1.04	
水痘	71	2.96	2.11	↗	急性脳炎(注3)	-	-	0.05	
手足口病	140	5.83	0.28	↗	細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	17	0.71	0.83		無菌性髄膜炎	1	0.14	0.10	
突発性発疹	21	0.88	1.29		マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.19	
百日咳	-	-	0.03		クラミジア肺炎(注4)	-	-	0.05	
風疹	1	0.04	0.08		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	7	0.29	1.35						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.15～2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1～1.5の増減
横ばい	→		殆ど増減なし

一時的な変動と考えられる場合は、前週との比較ではなく傾向を示しています。また報告数が少なく傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 37 (小児科定点含む)
 小児科定点数 24
 眼科定点数 8
 性感染症定点数 9
 基幹定点数 7

(注1) 過去3年間の同時期平均(定点当り)
 (注2) 成人麻疹を除く
 (注3) 日本脳炎を除く
 (注4) オウム病を除く

1 類～4 類感染症報告状況 (全数把握対象分)

類型	疾病名	報告数	累積	備考
4	レジオネラ症	1	1	男性(74歳)

4 類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

		インフル エンザ	咽頭結膜熱	A 群溶血性 レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (注1)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (注2)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (注3)	成人麻疹
報告数	広島市	第20週	1	4	28	127	59	43	5	16	-	-	1	-	29	-	11	1	1	2	-	-
		第21週	-	5	37	120	57	93	11	21	-	-	6	-	12	-	9	-	1	3	-	-
		第22週	-	4	34	79	71	140	17	21	-	1	7	-	13	1	17	-	1	1	-	-
定点 当り	広島市	第20週	0.03	0.17	1.17	5.29	2.46	1.79	0.21	0.67	-	-	0.04	-	1.21	-	1.38	0.14	-	0.14	0.29	-
		第21週	-	0.21	1.54	5.00	2.38	3.88	0.46	0.88	-	-	0.25	-	0.50	-	1.13	-	0.14	0.43	-	-
		第22週	-	0.17	1.42	3.29	2.96	5.83	0.71	0.88	-	0.04	0.29	-	0.54	0.13	2.13	-	-	0.14	0.14	-
広島県		第20週	0.09	0.15	0.89	5.37	2.63	0.88	0.24	0.57	0.01	0.07	0.16	-	0.77	0.15	1.40	0.05	-	0.05	0.19	-
		第21週	0.03	0.29	1.27	4.57	2.51	1.84	0.40	0.83	0.01	0.01	0.32	-	0.45	0.05	1.05	-	0.05	0.24	-	-
		第22週	0.05	0.22	1.41	4.71	1.92	0.51	0.22	0.76	0.01	0.04	0.29	0.13	0.66	0.06	1.01	0.00	0.01	0.03	0.22	0.03
全国		第20週	0.05	0.22	1.41	4.71	1.92	0.51	0.22	0.76	0.01	0.04	0.29	0.13	0.66	0.06	1.01	0.00	0.01	0.03	0.22	0.03
		第21週	0.03	0.28	1.63	4.63	1.90	0.80	0.31	0.76	0.01	0.03	0.54	0.12	0.58	0.04	1.06	-	0.01	0.03	0.24	0.02

(注1)成人麻疹を除く (注2)日本脳炎を除く (注3)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	住所	発症 年月日	検査材料	検出病原体
咽頭結膜熱	1	男	安佐北区	2003/04/16	咽頭拭い液	アデノウイルス1型

(参考)手足口病

口腔粘膜と四肢末端に水疱を生じる疾患である。我が国では昭和40年代前半から流行が明らかになった比較的新しい子どもの疾患である。

病原体 : 主としてコクサッキーウイルスA16型とエンテロウイルス71型である。

潜伏期間 : 2～7日程度

感染経路(発生時期) : 主として飛沫感染である。急性期が感染源となる期間であるウイルスは糞便中に排泄されるので経口感染も起こり得る。春から夏にかけて多く発生し、流行のピークは7月ころである。

症 状 : 発熱と口腔・咽頭粘膜に痛みを伴う水疱ができ、唾液が増え、手、足末端や臀部に水疱がみられるのが特徴。手足の水疱は比較的深いところに生じるので、水痘とちがって皮膚が破れたりかさぶたになることなく消える。発熱はあまり高くないことが多く、普通1～3日で解熱する。一般的には夏かぜの一つと言える軽い疾患である。ただしまれに、脳炎を伴った重症例の報告があるため、医師による経過観察が大切である。

予防方法 : 一般的な予防方法(手洗いなど日常の清潔操作)の励行が大切である。

(文部科学省/学校において予防すべき伝染病の解説(1999年)から引用)

本週報は、インターネットでもご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

なお、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

この情報の詳細に関するお問い合わせ先

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号

TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2003年第22週(5月26日～6月1日)